

## 看護学科 2年 前期 専門基礎科目／専門科目

1. 解剖生理学特論
2. 母性・小児疾病治療管理論
3. 精神疾病治療管理論
4. 放射線治療管理論
5. 公衆衛生学
6. 看護倫理
7. 国際・災害看護活動論
8. ケアマネジメント論
9. 精神看護学援助論 I
10. 成人看護学援助論 I
11. 成人看護学援助論
12. 高齢者看護学援助論
13. 小児看護学援助論 I
14. 母性看護学援助論 I
15. 基礎看護学実習 II
16. 看護研究 I (看護研究の計画)

## 看護学科

科目名: 解剖生理学特論				担当教員 氏名: 高田 亮子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門基礎科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護の専門基礎科目の看護への応用を学ぶ。臨床経験で遭遇した事例を想起しながら、病態と老化と看護の実際の見方、とらえ方、考え方について、学生の思考を育成する。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
・1年次で学んだ解剖生理の知識を、再度自らの知識に組み立てなおす。 ・解剖生理学の知識と病態・検査データとの関連性が理解できる。					解剖生理、各主要臓器の機能と検査、生理的機序と病態	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			アクティブラーニング、ラーニングセンターとの協働授業			
A 知識・理解力			・身体の構造としくみについて、主要臓器のメカニズムについて説明できる。			
B 専門的技術			・生理学的知識と検査データの関連について説明できる。			
C 論理的思考力			・解剖生理と検査・病態の関連性を、もつことができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			・個人の考えをもち、他者と協議できる。			
H コミュニケーション力			・学習の発表のためのプレゼンテーションを構成し、他者に説明できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 70 %	発表: 30 %	実技試験:	%	その他: 20 %
特記事項:						
課題解決型学修、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
・人体の構造と機能の関連性を理解し、プレゼンテーションでまとめ、説明できる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
・講義中・終了後に、意見意見交換を行い、理解度を共有し、次回の講義で定着していく。 ・個人ワークとグループワークをもとに、互いの知識の共有化をはかる。 ・個人ワークでの個別指導を行う。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【高田】人体の構造と機能の関連とその考え方 肝臓の機能と病態との関連、血球と酸素・免疫・凝固線溶と病態 各個人ワークとGW				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
②【高田】消化器(口、咽頭、食道、胃、十二指腸、肝臓、膵臓、小腸、大腸)				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
③【高田】呼吸器(呼吸、内呼吸・外呼吸、呼吸気量、ガス交換と運搬、肺循環、呼吸運動)				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
④【高田】循環器(心臓、体循環と肺循環、動脈と静脈、血管の構造、血液循環の調節、微小循環、リンパとリンパ管)				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
⑤【高田】腎機能(腎臓の構造と機能、糸球体・尿管、傍糸球体装置、クリアランス、生理活性物質、排尿の機構、体液の調節)				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
⑥【高田】内分泌(全身の内分泌腺と内分泌細胞、視床下部-下垂体系)				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
⑦【高田】PPによる発表				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
⑧【高田】PPによる発表				テキスト該当部分参照	予習60分 復習60分	
使用テキスト: 解剖生理学で使用しているテキスト 解剖生理学(メディカ出版)、林正健二著 イメージできる解剖生理学(メディカ出版)、ナーシング・サブリエ編集委員会編 解剖生理学で使用したテキスト				その他参考文献など: カラーで学べる病理学(ヌーベルヒロカワ) 疾病と看護 消化器、循環器、呼吸器、血液、内分泌(MCメディカ出版) 他		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護の対象の身体の機能の知識をもとに、目の前の対象の示す身体上の手がかりから、身体の不調が推論できるようになる必要があります。そのためには、正常な機能の関連性を理解し、病気によって正常な機能がどのように障害され、その結果身体機能の異常としてあらわれるのかを知ることは、臨床推論力を高める上で不可欠の能力となります。ぜひ、主体的な学びにしていってください。						

## 看護学科

2年

科目名: 母性・小児疾病治療管理論				担当教員 氏名: 吉本英生(母性) 高島琢磨、長森万里子(小児)	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			臨床医が経験を活かして、疾患、治療の理解と現状について教授する。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
・新生児から思春期にかけての小児期における看護援助をするために、小児期における疾患の特徴および精神・社会的問題を理解する。・妊娠・分娩・産褥の正常な経過と各期における異常および婦人科疾患について病態を理解し、医学的処置について理解する。				小児・成長・発達・疾患・環境 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児	
授業科目の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力	胎児・乳児の成長に影響する母体と小児期の成長発達の正常と異常について理解できる。				
C 論理的思考力	連続した成長発達に及ぼす影響を複眼的、論理的に整理できる。				
E 自己管理能力	学生自身の予防接種や罹患した病気を通して小児期の健康管理について考えることができる。今後の自らの妊娠・出産について考えることができる。				
G 倫理観	弱者としての妊産婦および小児を守り、その環境を健全にする意識を持つ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項: 【長森】出席をとります。テストで評価します。 【吉本】出席をとります。テストで評価します。 【高島】					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 【長森】最終回の講義のあとにまとめてテストを行います。 【吉本】講義とは別にテストを行います。 【高島】					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 【長森】試験の解答と一緒に講評を文章にして後日配布します。 【吉本】試験の解答を提示し授業ノートで確認 【高島】					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な時間(分)
①【長森】小児のよく見られる疾患、呼吸器、アレルギー、感染症					180分
②【長森】小児のよく見られる疾患 神経疾患、皮膚疾患、小児救急			【復習】講義の内容を復習する		180分
③【長森】小児の慢性疾患、障害児					180分
④【高島】小児の成長と発達、その評価法、栄養と小児保健、予防接種、新生児、先天異常、マスキング、先天性心疾患			【復習】講義の内容を復習する		180分
⑤【吉本】妊娠期の異常					180分
⑥【吉本】分娩期の異常			【予習】講義内容箇所のテキストを読む		180分
⑦【吉本】産褥期・新生児の異常			【復習】講義内容を講義ノートで復習する		180分
⑧【吉本】婦人科疾患と治療					180分
使用テキスト: ①系統看護学講座 専門25 母性看護学各論 母性看護学[2]医学書院 ISBN 978-4-260-04223-9(吉本) ②メディカ出版 疾病と看護⑨女性生殖器 ISBN 9784840469050(吉本) ③ナースの小児科学 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5 (高島、長森) ④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2]医学書院 ISBN ISBN 978-4-260-03866-9 (高島、長森)			その他参考文献など: 「新生児蘇生法テキスト」 「病院前救護のための産科救急トレーニング」		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 受胎に始まり、成長と発達を重ね思春期に至る小児の身体・精神的特長を理解して欲しい。個々の疾患の治療のみならず、成長と精神発達を加味した包括的医療があることを理解して欲しい。肉体的・精神的弱者としての小児の特異性を、社会医学的観点から理解し、患児や家族にいたわりの気持ちを持って接することができる医療人になって欲しい。					

## 看護学科

科目名: 精神疾病治療管理論				担当教員 氏名: 田仲 耕大、高野 利明 とりまとめ千		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 【田仲】まずは興味を持っていただけるような、そして将来、臨床現場で役に立つような授業内容を心掛けています。 【高野】臨床心理士としての体験事例を多く示し、実際のかかわりを理解しやすくする。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
精神疾患治療管理論では精神障害の症状、分類、診断、治療およびリハビリテーションなどに関する臨床医学の主要専門領域である精神医学について、看護に必要とされる基礎知識を習得する。また、家族援助の実際と留意点を臨床心理士のかかわりを通して心理学的観点から学ぶ。					精神障害の症状、分類、診断、治療、リハビリテーション、家族支援	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 5. 6. 8. 9			
A 知識・理解力			①精神疾患を成因的に分類できる ②主要な精神疾患の概要を述べるができる ③精神科治療に関わる治療法の特徴と各障害への適応を知る			
B 専門的技術			④家族援助の必要性を理解する			
D 問題解決力			⑤家族アセスメントの方法を理解する			
H コミュニケーション力			⑥かかわり方の留意点を理解する			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 【田仲】特になし。 【高野】レポートのテーマや提出日などは講義内で提示する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 【田仲】毎回の授業の終了時にリアクションペーパーを記述する。全授業終了後に試験を実施し、知識と理解の定着度を評価する。 【高野】講義で印象に残ったことに感想を入れて、レポートにまとめる。レポートはA4 1ページ。書式は自由。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:【高野】レポートにコメントをつけて返却する。【田仲】試験実施後に答案を模範解答・解説と一緒に返却する。						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
①【田仲】 序論、精神症状学など					【予習】疾患と治療について考える	60分
②【田仲】 神経発達症、統合失調症など					【復習】配布資料の確認と復習	60分
③【田仲】 気分障害、薬物療法、精神療法など					【復習】配布資料の確認と復習	60分
④【田仲】 神経症性障害、摂食障害など					【復習】配布資料の確認と復習	60分
⑤【田仲】 物質関連障害、器質性精神障害など					【復習】配布資料の確認と復習	60分
⑥【田仲】 せん妄、パーソナリティ障害など					【予習・復習】まとめ	60分
⑦【高野】 家族援助の意義、家族のストレス					【復習】講義内容の整理	【復習】120分
⑧【高野】 家族のアセスメント、かかわり方の留意点					【復習】講義に関するレポート作成	【復習】120分
使用テキスト: 【田仲】精神看護学(1):情緒発達と精神看護の基本(ナーシング グラフィカ)、 精神看護学(2):精神障害と看護の実践(ナーシング グラフィカ) 【高野】不要					その他参考文献など: ・家族が知りたい統合失調症への対応Q&A 高森信子 著(日本評論社) ・看護のための精神医学 中井久夫/山口直彦 著(医学書院)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 精神看護学援助論の履修に必要な知識を学習するので、しっかり取り組んでください。 患者や家族に対し現在の援助はチームを組んで行うのが一般的です。 他の職種が援助でどの部分を支え、どんなかかわり方をするのかを知ってください。						

## 看護学科

科目名：放射線治療管理論				担当教員 氏名：北川 俊明		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： X線CT・CT-A MRI・MRA 血管撮影・血管内手術など症例を示し、手技及び読影において重要事項を説明						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
進歩の著しい臨床放射線医学(放射線腫瘍学、放射線診断学、核医学)の概要を理解する。					放射線診断、放射線治療、 放射線防護 CT MRI 核医学 PET IVR	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			・放射線治療の対象疾患、治療方法、治療に伴う合併症について理解する。 ・放射線診断学特にCT, MRI, PETの特徴と臨床における役割を理解する。			
C 論理的思考力			・放射線治療や放射線診断における看護師の役割について理解する。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 90 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項： 出席状況・出席態度も評価する。全体の得点が60点未満の場合はReport提出を課す。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 別に定めた日時にテストを1回行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： テストについて解説する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①放射線医学の基礎的事項・放射線防護について				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
②CTについて				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
③MRIについて				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
④核医学、PETについて				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑤超音波診断、IVRその他+「放射線診断学・放射線防護」のまとめ				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑥放射線治療学総論				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑦放射線治療学総論				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
⑧全体のまとめ				【予習】教科書を読む 【復習】プリントの復習	【予習】90分 【復習】90分	
使用テキスト： 系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学 (医学書院) ISBN 978-4-260-02178-4				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

## 看護学科

科目名： 公衆衛生学				担当教員 氏名： 松井 健一 とりまとめ 泉		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門基礎科目	講義	必修	社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 公衆衛生医師としての実務経験を活かし、保健と福祉について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
地域保健・医療問題解決のために必要な公衆衛生学の基礎知識に重点を置き、疾病予防、疫学、行政施策、および国際的取り組みについて学ぶ。地球規模の環境問題と公衆衛生の今後の課題を考える。						公衆衛生、疫学、地域保健、予防、福祉
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	看護に活用される公衆衛生学の基礎知識を理解する					
B 専門的技術	専門的看護技術を習得するために、公衆衛生の考え方と行政施策を理解する					
C 論理的思考力	公衆衛生と疫学を理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う					
F チームワーク・リーダーシップ	地域保健・地域医療の一員である看護師の役割を理解する					
G 倫理観	地域で生活する人々の健康や生命の尊厳を理解し、医療・福祉に携わるものとしての倫理観を身につける					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項：公衆衛生の歴史をたどり、我が国の健康指標の改善や今後の課題を自ら考え、課題解決に必要な考え方・知識、技術、ネットワークのあり方を考察する。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：小テストを兼ねたアンケートを行うことがある。6回目の講義時にレポートを実施する。「補講・試験」日に成績評価試験を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：アンケートの結果は、次の講義で取り上げる。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①公衆衛生の歴史				テキスト「公衆衛生の歴史」を読む	【予習】120分 【復習】150分	
②公衆衛生のシステム				テキスト「現在の公衆衛生システムと政策」を読む	【予習】120分 【復習】150分	
③公衆衛生の政策				テキスト「諸外国の公衆衛生政策」を読む	【予習】60分 【復習】60分	
④公衆衛生の公的責任				テキスト「公衆衛生の理念・概念」を読む	【予習】120分 【復習】150分	
⑤公衆衛生の方法				テキスト「公衆衛生のものさし」を読む	【予習】60分 【復習】60分	
⑥疫学調査の実際				テキスト「公衆衛生活動における疫学」を読み、事例を学ぶ	【予習】120分 【復習】150分	
⑦公衆衛生のアプローチ				テキスト「公衆衛生活動のプロセス」を読む	【予習】50分 【復習】150分	
⑧まとめ				公衆衛生学授業全体の復習をする	【予習】50分 【復習】150分	
使用テキスト： ISBN978-4-8404-7210-4 平野かよ子、他(編)：ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障②「公衆衛生」第5版 メディカ出版				その他参考文献など： 近藤克則著「健康格差社会への処方箋」医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：新型コロナウイルス感染症は、公衆衛生や疫学調査の重要性を改めて世に問うている。公衆衛生は国家試験の必須科目であるので、今後も出題が増える予想される。しっかりと学修してほしい。この講義は、予習よりも復習を重要視してほしい。						

看護学科						
科目名: 看護倫理				担当教員 氏名: 坂東 紀代美 中田 智子		
開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	後期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実務経験から、治療への患者・家族の意思決定場面や拘束等の実際を体験し、倫理的ジレンマを感じる場面が多くあった。倫理とは何か、看護に求められる倫理とそれに基づいた援助とはを考えた上で、授業に活かしたい。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
看護は、対象のもつ力を最大限に引き出し、病気やそれに伴う心理・社会的な問題を対象と共に解決することである。そこには、常に課題とそれに対する対象の意思決定が必要とされる。倫理的感性をもち、対象の意思決定の支援ができる能力を育成する。 キーワード 倫理、法、道徳の考え方倫理的判断 倫理原則					倫理、法、道徳の考え方倫理的判断 倫理原則 倫理的意決定	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力		対象のヘルスニーズを判断するために必要な基礎的知識や技術を習得できる。看護の対象である人々の安全、安楽、自立、個性性を支えるために正確な知識、技術の習得の必要性がわかる				
C 論理的思考力		論理的課題を考察する技術を習得できる。				
D 問題解決力		科学的・分析的態度を身につけることができる。				
E 自己管理能力		学習やグループワークを通して、自己の役割を理解し、リーダーシップおよびメンバーシップのあり方を形成する。				
G 倫理観		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 20 %		発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項:「レポート:40%」については、提出状況や内容についてを評価する。 「その他:10%」については、授業(演習)での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:課題学習、グループワークを行う。 別に定めた日時に、本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。講義前に課題や試験、レポート等に関するオリエンテーションを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題については修正部分を指摘し返却する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①倫理学の基本的な考え方、生命倫理				【予習】P10～34 【復習】課題をレポート	【予習】60分 【復習】60分	
②性と生殖の生命倫理、死の生命倫理				【予習】P42～71 【復習】課題をレポート	【予習】60分 【復習】60分	
③先端医療と制度をめぐる生命倫理				【予習】P74～90 【復習】課題をレポート	【予習】60分 【復習】60分	
④看護倫理とは何か、専門職の倫理				【予習】P96～136 【復習】各自の事例の抽出、文献検索	【予習】60分 【復習】60分	
⑤倫理的問題へのアプローチ、看護研究の倫理、事例分析				【予習】P138～213 【復習】事例の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑥各自実習における倫理的葛藤場面の描写。個人の分析内容をもとに分析を多角的に行う				【予習】文献検索 【復習】事例の整理	【予習】60分 【復習】60分	
⑦グループで各自の分析内容をもとにまとめ、発表のパワーポイント作成				【予習】PPの発表準備 【復習】PPの発表準備	【予習】60分 【復習】60分	
⑧発表				【予習】PPの発表準備 【復習】学びのレポート	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 1 看護倫理 医学書院 ISBN978-4-260-03445-6				その他参考文献など: 1.看護倫理 学研 石井トク他 2.看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方 医学書院 吉武久美子 3.身近な事例で学ぶ看護倫理 中央法規 宮脇美保子その他参考文献		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):医療におけるパターナリズムに潜む倫理的課題が看護現場には多く存在する。常に看護者として倫理的視点にたち、対象のもつ権利擁護できる力が必要とされている。倫理的感性を育てながら、対象の意思決定支援が行える看護者として学んでほしい。						

## 看護学科

2年

科目名： 国際・災害看護活動論				担当教員 氏名： 大橋 達子、高橋 絹代		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門科目	講義	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード		
1. 災害看護と国際看護について理解できる 2. 看護師としての災害支援、国際支援の役割とあり方について考えることができる				国際機構、ミレニアム開発目標、SDGs、ヘルスプロモーション、国際協力、国際支援 災害サイクル、トリアージ、ICS(インシデントコマンドシステム)、災害時のマネジメント		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力		世界で起きている問題について、その背景や影響などを踏まえた理解することができる				
D 問題解決力		困難な状況下において発生する問題に看護師という専門職の立場で対処について考えることができる				
F チームワーク・リーダーシップ		世界で起こっている災害、貧困、紛争への関心を深め、必要な援助について考えることができる				
G 倫理観		グローバルな視点で物事を捉えることができる				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： 30 %	発表： 0 %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：試験60% レポート30% ・その他10%は出席状況、授業態度、課題提出状況 から総合的に評価する。 申請するとインシデントコマンドシステム(ICS)国際資格を習得することができる(有料)						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： レポートは講義時に課題を提示する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： レポート提出ならびに学習発表においてコメントを行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【高橋】国際看護とは			【予習】テキスト第4章A読む 【復習】テキスト第4章Aをまとめる		【予習】60分 【復習】60分	
②【高橋】グローバルヘルス			【予習】テキスト第4章B読む 【復習】テキスト第4章Bをまとめる		【予習】60分 【復習】60分	
③【高橋】国際協力のしくみ			【予習】テキスト第4章C読む 【復習】テキスト第4章Cをまとめる		【予習】60分 【復習】60分	
④【高橋】開発協力と看護/国際救護と看護			【予習】テキスト第4章FG読む 【復習】テキスト第4章FGを振り返る		【予習】60分 【復習】60分	
⑤【大橋】災害看護学			【予習】テキスト第2章読む 【復習】テキスト第2章まとめる		【予習】60分 【復習】60分	
⑥【大橋】地震災害看護の展開			【予習】テキスト第3章読む 【復習】テキスト第3章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分	
⑦【大橋】災害時に必要な医療・看護			【予習】テキスト第2.3章読む 【復習】テキスト第2.3章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分	
⑧【大橋】被災看護の実際			【予習】テキスト第2.3章読む 【復習】テキスト第2.3章をまとめる		【予習】60分 【復習】60分	
⑨～⑫【大橋】ゲストスピーチ JDMA 芦村英昭先生 インシデントコマンドシステム(ICS) について			【予習】事前に資料を読む 【復習】授業内容は終了後試験判定する		【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト： 災害看護・国際看護 看護の実践と統合(医学書院) ISBN978-4-260-03570-5			その他参 JDMA発行のテキスト参照			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 世界で起きている紛争、貧困、災害の実際を知り、看護について考える。						



看護学科					
科目名: ケアマネジメント論			担当教員 氏名: 荒木 晴美、炭谷 英信		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 病院、訪問看護事業所管理者(訪問看護、居宅介護、福祉用具貸与)、介護認定調査員などの実務経験を活かして、地域と在宅で暮らす人々の理解、ケアマネジメントの方法について教授する。					
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード
その人らしく住みながら地域で暮らし続けることを支援するためには、療養者(児)・家族や住民、医療職や福祉職を含むさまざまな人々との連携を構築していく技能と、生活の場で医療の知識技術を活用していく技能が必要となる。ここでは、地域で暮らす療養者(児)・家族を対象とした看護を展開できるようにするために、在宅療養者とその家族に対する在宅ケアの実際と地域の特徴を捉えた展開方法を知り、そのケアシステムにおいて活動する看護職および介護支援専門員等の役割を学ぶ。また、様々な障害をもつ人々が地域で暮らし続けるための仕組みとその仕組みづくりの方法や過程について学ぶ。					地域包括ケア、ケアマネジメント、社会資源、介護支援専門員、多職種連携
授業における学修の到達目標					
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力	地域包括ケアの実現に向けた看護を展開できるようになるために、 1) 社会資源の有効な活用方法について理解することができる 2) 在宅支援サービスの具体的な展開方法を習得する 3) ケアマネジメントについて理解し、「人、こと、もの」に働きかけることができる				
B 専門的技術	グループワーク、討論を行うことをとおして論理的思考力、問題解決力、チームワーク、コミュニケーションを向上させる。				
C 論理的思考力					
F チームワーク・リーダーシップ					
H コミュニケーション力					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 60 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークを行うことにより地域・在宅で療養している人々を支援するための仕組みについて理解を深め、看護師としての役割、介護支援専門員の役割、多職種連携を学ぶことを狙いとしています。今後、病院に勤めても求められるところですので積極的に参加してください。その他10%は取り組み具合を評価します。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 本科目は「特別連携授業」として他学科との合同授業を行います。適宜レポートの提出と発表を課します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート等は後日返却します。					
授業計画					
準備学修(予習・復習等)					
学修内容					
学修に必要な時間(分)					
①【荒木】ガイダンス、地域・在宅看護を取り巻く保健・医療・福祉の動向 地域・在宅看護を提供する資源とシステム	【予習】シラバス確認、テキスト2、4該当ページ熟読 【復習】ポイントをノートにまとめる				【予習】60分 【復習】60分
②【荒木】地域包括ケアとケアマネジメント	【予習】テキスト3Ⅱ章(5)⑥、テキスト4第1章、5章、6章該当ページ熟読 【復習】ポイントをノートにまとめる				【予習】60分 【復習】60分
③【炭谷】在宅療養の支援 看護の継続	【予習】テキスト1 第3章熟読 【復習】ポイントをノートにまとめる				【予習】60分 【復習】60分
④【炭谷】地域・在宅療養を支える制度と社会資源(制度・医療保険)	【予習】テキスト2第6章熟読 【復習】ポイントをノートにまとめる				【予習】60分 【復習】60分
⑤【炭谷】地域・在宅療養を支える制度と社会資源(制度・介護保険)	【予習】テキスト2第6章熟読 【復習】ポイントをノートにまとめる				【予習】60分 【復習】60分
⑥【炭谷】継続看護 退院支援看護(特別講師: 地域連携室など)	【予習】テキスト4第5章熟読 【復習】レポート課題				【予習】60分 【復習】60分
⑦【炭谷】在宅看護の時期別の介入、多職種連携	【予習】テキスト4 第3章、7章A熟読 【復習】課題				【予習】60分 【復習】60分
⑧【炭谷】在宅療養導入の事例展開(脳卒中)	【予習】テキスト4該当ページ熟読 【復習】課題				【予習】60分 【復習】60分
⑨【炭谷】在宅療養導入の事例展開(小児)	【予習】テキスト4該当ページ熟読 【復習】課題				【予習】60分 【復習】60分
⑩【荒木】在宅でのケアマネジメント 事例展開	【予習】テキスト1、テキスト4第5章熟読 【復習】課題				【予習】60分 【復習】60分
⑪【荒木】在宅でのケアマネジメント 事例展開	【予習】テキスト1、資料熟読 【復習】課題				【予習】60分 【復習】60分
⑫【荒木】在宅でのケアマネジメント 事例展開	【予習】資料の事例の疾患、内服等調べる 【復習】課題				【予習】60分 【復習】60分
⑬【荒木】在宅でのケアマネジメント 事例展開 多職種連携(特別連携授業)	【予習】事前に説明 【復習】課題シート記載				【予習】60分 【復習】60分
⑭【荒木】在宅でのケアマネジメント 事例展開 多職種連携(特別連携授業)	【予習】事前に説明 【復習】課題シート記載				【予習】60分 【復習】60分
⑮【荒木】ケアマネジメント まとめ	【予習】地域包括ケア実現のためのケアマネジメントについて考える 【復習】課題レポート作成				【予習】60分 【復習】60分
使用テキスト: 1. みんないきいき介護保険 社会保険出版社 コード89435 2. 【1年で使用】「地域・在宅看護の基盤」(医学書院出版) 3. 【1年で使用、メチカルフレンド社「看護実践のための根拠がわかる『在宅看護技術』新版」 4. 【1年で使用】地域・在宅看護の実践 医学書院			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域包括ケアを実現するために何が必要か意識し、地域で活動する看護職以外の専門職の役割について学習を深めましょう。					

## 看護学科

科目名: 精神看護学援助論 I			担当教員 氏名: 坂東 紀代美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	必修
実務経験を用いてどのような精神病院での経験や精神看護教育の経験を活かし、地域での生活を視座した精神障がい者への支援に授業を行っているか: ついて講義する					
					キーワード
社会におけるこころの健康を理解し、精神疾患や障がい者が及ぼす生活障がい(生きづらさ)を理解する。早期退院・地域での生活を視座に当事者なりのウェルビーイングに必要な資源活用など精神障がい者への援助の基礎を修得する。				こころの健康 ストレス 地域定着支援 障害者総合支援法 強制入院 行動制限と人権擁護 治療的関係	
授業における学修の到達目標					
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力	精神障がい者の生きづらさについて、精神症状や精神運動性興奮などの知識を活用できる。精神医療の変遷から精神障がい者への偏見を学修し適切な援助を考える。				
B 専門的技術	精神科疾患からの影響や各人に適した社会資源、社会復帰について学修し、知識を活用できる。				
C 論理的思考力	精神の障害が、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別の看護計画に反映させることができる。				
D 問題解決力	当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。精神科リハビリを理解し、関係する人や社会資源の活用を考えることができる。				
E 自己管理能力	精神科疾患や精神科病院への偏見を理解し、当事者への人権的配慮ができる。疾患からの行動を理解して対応できる。				
G 倫理観	研究における倫理的配慮について述べるができる。				
出席状況、授業態度、定期試験の結果などを総合的に評価する。アクティブラーニングの一環としてDVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テキスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 次回講義までレポート記入し提出					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートにコメントを記載し返却					
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)		
			学修内容	学修に必要な時間(分)	
①歴史と法制度の変遷			【予習】歴史と法制度の熟読 【復習】法制度の変遷をレポートする	【予習】120分 【復習】120分	
②ストレスと対処・防御機制 ライフサイクルとメンタルヘルス			【予習】人間の心を読む 【復習】ライフサイクルの危機についてレポートする	【予習】120分 【復習】120分	
③現代社会とこころの問題 自殺・ひきこもりの現状と支援活動 家族の課題			【予習】社会の特徴を学修 【復習】家族の支援を考える	【予習】120分 【復習】120分	
④精神障がい者の医療の動向 依存症 薬物療法 行動制限と倫理 グループワーク			【予習】疾患の復習をしていく 【復習】グループで課題をレポートする	【予習】120分 【復習】120分	
⑤発表			【予習】課題のレポートをする 【復習】発表内容の修正	【予習】120分 【復習】120分	
⑥精神障がい者の理解 精神障がいとともに生きるということ			【予習】精神障害の種類を学修 【復習】精神障がいを理解	【予習】120分 【復習】120分	
⑦精神障がい者の医療の動向、精神保健福祉政策の現状、精神障がい者の援助方法			【予習】資料熟読 【復習】授業内容、資料熟読	【予習】120分 【復習】120分	
⑧障がい者総合支援法、精神障がい者の地域移行のための支援			【予習】前回授業内容熟読 【復習】授業と資料を関連づける	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 精神看護学(1):情緒発達と精神看護の基本(ナーシンググラフィカ)ISBN978-8404-7541-9 C3347 ・精神看護学(2):精神障害と看護の実践(ナーシンググラフィカ)ISBN978-4-8404-7542-6 C3347			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 生活上の心の健康のありかた、看護師としてのかかわり、社会での精神障害を持った人々への看護師としてのかかわりを考える。差別について看護実践を通して考える。					

看護学科					
科目名: 成人看護学援助論 I			担当教員 氏名: 大橋達子、中田 智子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
成人期は、社会的役割を担い、自立・自律し、基本的にはセルフマネジメント、意思決定ができる存在です。そのような人の急な病気・外傷・手術に伴う人間の心理的ストレスや生体侵襲などによる心身反応を理解し、個人の尊厳に配慮しながら根拠に基づいた看護を提供できる知識・技術・態度の育成を目指す。				手術侵襲・生体反応 術後合併症 周術期の看護 健康危機状況 クリティカルケア	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる				
C 論理的思考力	さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探求する				
E 自己管理能力	自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない				
F チームワーク・リーダーシップ	グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たし、お互いを資源とし、助け合う				
G 倫理観	他者が、自分が尊重され、配慮されたと認識できるような行動をする				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: 0 %	発表: 0 %	実技試験: 0 %	その他: 10 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中で適宜解説をする。 授業の4回目および9回目終了時に小テスト、すべての授業終了後に筆記試験を実施する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【大橋】急性期看護及び外科(周術期)看護の特徴と課題			【予習】テキスト1の序章第1章を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
②【大橋】手術侵襲と生体反応					
③【大橋】術後合併症の発生機序			【予習】テキスト1の第9章を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
④【大橋】健康危機状況にある患者の看護					
⑤【中田】開胸術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第1章、第2章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑥【中田】開心術及び経皮的冠動脈形成術を受ける患者の看護					
⑦【中田】消化器(食道がん)・泌尿器の手術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第3章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑧【中田】消化器の手術を受ける患者の看護(胃がん・腹腔鏡手術)					
⑨【中田】消化器の手術を受ける患者の看護(膵胆肝)					
⑩【中田】開頭術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第1章第3章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑪【大橋】消化器の手術を受ける患者の看護(大腸がん・ストーマ増設)					
⑫【大橋】女性生殖系(乳がん・子宮がん)・感覚器の手術を受ける患者の看護			【予習】テキスト2の第4章の関連項目を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑬【大橋】運動器の手術を受ける患者の看護					
⑭【特別講義】クリティカルケア看護の基本概念			【予習】テキスト1の第10章を読む 【復習】テキスト講義資料をもとに復習する	【予習】120分 【復習】120分	
⑮【特別講義】クリティカルな状態にある人の特徴と理解、援助				【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 1. 矢永勝彦他編集: 系統看護学講座: 別巻 臨床外科看護総論, ISBN978-4-260-02769-4 医学書院。2. 北島政樹他編集: 系統看護学講座: 別巻 臨床外科看護各論 ISBN978-4-260-02765-6 医学書院。3. 看護診断ハンドブック第11版, ISBN978-4-260-03451-7 医学書院。			その他参考文献など: 竹内登美子: 周術期看護1~5, 医歯薬出版株式会社、本庄恵子監修: 写真でわかる臨床看護技術②, インターメディカ、雄西智恵美、秋元典子: 成人看護学 周術期看護論第3版、ヌーベルヒロカワ		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 予習復習を必ず行いましょう					

看護学科

科目名: 成人看護学援助論Ⅲ				担当教員 氏名: 小倉 之子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 授業内において実務経験をふまえた体験談、実際にイメージできる映像・画像を用いながら具体的に示すことで学生の学習理解に繋げる						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
慢性疾患とともに生活をしている人を支える慢性期看護の役割が理解できる。さらに慢性期経過をたどる「がん」治療を中心としたがん看護、終末期看護などについて疾患や症状をふまえて代表的な慢性疾患から患者の特徴と看護の展開方法を習得する。					慢性期看護、がん看護、終末期看護、セルフマネージメント	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 8	
A 知識・理解力		1年次に習得した看護理論、病態生理を再確認しながら理解することができる				
B 専門的技術		状況や関係を把握し疾患看護の技術を習得することができる				
C 論理的思考力		さまざまな情報や知識を得て、大局的・論理的に分析することができる				
F チームワーク・リーダーシップ		演習において、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え、次の支援に繋げていくことができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 終講試験は実施しません。評価について授業前の事前課題レポート、授業時間に実施する小テスト、自己学習課題の結果をもとに総もとに総合的に評価をします。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートはコメント記入して返却後、授業中それを持参し活かすこと。次週授業前にレポート内容を含めた小テストを実施 する。						
授業計画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①成人慢性期の特徴および慢性疾患の種類、疾病、看護の役割			{予習}第1章(慢性期看護)熟読 {復習}①の復習	{予習}120分【復習】120分		
②慢性の呼吸機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性閉塞性肺疾患)			{予習}4章-I 熟読(慢性閉塞性肺疾患) {復習}②の復習	{予習}120分【復習】120分		
③慢性の呼吸機能障害をもつ患者における看護の役割(気管支喘息)			{予習}4章-II 熟読(気管支喘息) {復習}③の復習	{予習}120分【復習】120分		
④慢性の循環機能障害をもつ患者における看護の役割(高血圧)			{予習}4章-IIIを熟読(高血圧) {復習}④の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑤慢性の循環機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性心不全)			{予習}5章6章を熟読(慢性心不全) {復習}⑤の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑥身体防御機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性腎臓病)			{予習}4章Ⅶを熟読(慢性腎臓病) {復習}⑥の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑦透析療法を受ける患者への看護の役割④			{予習}4章Ⅷを熟読(透析療法) {復習}⑦の復習	{予習}120分【復習】131分		
⑧慢性の消化機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性肝炎)			{予習}5章5-3を熟読(慢性肝炎) {復習}⑧の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑨慢性の代謝機能障害をもつ患者における看護の役割(糖尿病)			{予習}5章5-4(糖尿病)4章(インスリン療法を受ける患者の援助)を熟読 {復習}⑨の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑩身体防御機能障害をもつ患者における看護の役割(貧血・白血病)			{予習}5章5-6を熟読(白血病) {復習}⑩の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑪化学療法の特徴と看護の役割			{予習}4章5化学療法を受ける患者の看護を熟読(化学療法) {復習}⑪の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑫放射線治療の特徴と看護の役割			{予習}4章6放射線を受ける患者の看護を熟読(放射線療法) {復習}⑫の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑬【特別講義】緩和ケアの概要 ペインコントロール			{予習}第1章を参照 {復習}⑬の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑭【特別講義】スピリチュアルケア			{予習}第1章を参照 {復習}⑭の復習	{予習}120分【復習】120分		
⑮緩和ケアで行われる代替療法(音楽療法)			{予習}第1章を参照 {復習}⑮の復習	{予習}120分【復習】120分		
使用テキスト: 1 鈴木久美編, 成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える改訂第3版, 南江堂 ISBN978-4-524-24198-9 2. 田中越郎, イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき第3版, 医学書院 ISBN978-4-260-03887-4			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 成人看護学実習に向けて疾患の理解とアセスメントがきできるように理解を深めましょう。						

## 看護学科

科目名: 高齢者看護学援助論 I			担当教員 氏名: 米山 美智代(とりまとめ) 大橋達子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要: 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化と、高齢者の健康と生活を整えるために必要な看護の役割を理解する。また、健康維持・増進のための環境調整についても理解する。					キーワード 高齢者 健康障害 QOL 日常生活行動	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	健康障害から影響を受ける生活行動及び健康問題について理解できる					
A 知識・理解力	高齢者に特有な健康障害に対するアセスメント、援助方法が理解できる					
B 専門的技術	高齢者の様々な療養の場の特徴と看護ケア方法を理解できる					
C 論理的思考力	健康障害を抱える高齢者のQOLの向上を目指した援助のあり方を検討する					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: その他は授業態度、取り組み姿勢、出席状況について評価します。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜課題の提出と別に定めた日時で最終テストを行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題は添削の後返却し、授業で解説します。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な 時間(分)	
① 【米山】症候のアセスメントと看護				【予習】教科書第6章熟読 【復習】①の復習	【予習】60分 【復習】60分	
② 【米山】身体疾患のある高齢者の看護 脳卒中				【予習】教科書③熟読 【復習】②の復習	【予習】60分 【復習】60分	
③ 【米山】身体疾患のある高齢者の看護 心不全				【予習】教科書第6章熟読 【復習】③の復習	【予習】60分 【復習】60分	
④ 【大橋】高齢者理解(聞き書き) 高齢者のコミュニケーションの特徴、生活史、QOL				【予習】教科書③熟読 【復習】④の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑤ 【大橋】高齢者理解(聞き書き) 高齢者のコミュニケーションの特徴、生活史、QOL				【予習】教科書第6章熟読 【復習】⑤の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑥ 【米山】認知機能障害のある高齢者の看護				【予習】教科書第6章熟読 【復習】⑥の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑦ 【米山】生活・療養の場における看護				【予習】教科書第9章熟読 【復習】⑦の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑧ 【米山】生活療養の場における看護				【予習】教科書第9章熟読 【復習】⑧の復習	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: ①北川公子著者代表: 系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他: 系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院) ISBN978-4-260-03172-1 ③小田豊二他著: ワークブック「聞き書き」を始めよう(木星舎) ISBN978-4-901483-75-9C0037				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 教科書は①②を併用するため持参してください。						

## 看護学科

科目名: 小児看護学援助論 I				担当教員 氏名: 古里 直子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師の実務経験を生かして看護の場や対象の理解を現状について講義を行う						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
小児看護学概論の内容を踏まえ、子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ。病気や障害等の健康問題をもつ小児と家族を理解する。「子どもの最善の利益」を考慮した看護援助についての知識を習得する					病気・障がい・症状・健康問題・小児・家族 ・「子どもの最善の利益」・看護支援・倫理	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	①発達段階に合わせた小児の特徴を理解し、安全な看護援助を提供するための、知識を学び、安全な看護援助を提供するための、知識を学ぶ					
B 専門的技術	②小児を取り巻く環境を考えることができる					
C 論理的思考力	③健康問題に配慮した小児の成長発達への支援のあり方の、基本姿勢について記述できる					
D 問題解決力	④健康障害をもつ子どもと家族の看護について理解を深め、自己の看護観を深めることができる					
G 倫理観	⑤「子どもの最善の利益」を考慮し、子どもとその家族を尊重をした支援について考えることができる					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: 10 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:各単元終了後に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【古里】小児看護学① こどもの成長・発達と看護				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】配布資料の確認と復習・課題		
②【古里】小児看護学① こどもの成長・発達と倫理						
③【古里】ゲストスピーチ:小児のこころの発達をふまえたかかわりかた						
④【古里】小児看護学② 第3章 代謝性疾患と看護						
⑤【古里】小児看護学②第8章 循環器疾患と看護						
⑥【古里】小児看護学②第11章 悪性新生物と看護						
⑦【古里】小児看護学②12章 腎・泌尿器疾患と看護						
⑧【古里】小児看護学②第13章 神経疾患と看護						
使用テキスト: ・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7 ※1年次購入済 ・ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①「解剖生理学」 ISBN9784840478311※1年次購入済 ・系統看護学講座 小児看護学② 医学書院 ISBN 978-4-260-03866-9 ・新訂第2版 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-451-3 ・ナースの小児科学 改訂6版 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・成長・発達の特徴を理解し、看護につなげることができる考えをトレーニングする場とする。 ・看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識の習得を目指す。						

看護学科

2年

科目名: 母性看護学援助論 I				担当教員 氏名: 稲垣 尚恵、山本 朋子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			助産師としての経験を活かし、妊婦・産婦・褥婦、新生児およびその家族の看護における実際の体験を交えながら指導する。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
マタニティサイクルにある女性及び新生児とその家族の特徴を理解し、良好な経過を促すための看護に関する基礎的知識と技術及び態度の習得をめざす。更に、健康障害を持つ女性の看護における基礎的知識の習得をめざす。				妊娠 分娩 産褥 胎児 新生児 母体の変化 マイナートラブル 心理的变化 母子相互作用 母親役割 子宮外生活への適応 ハイリスク妊娠	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力		マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識を学ぶ。			
B 専門的技術		妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得する。			
C 論理的思考力		身体的な一体性から社会的な二者一体性への連続した変化を考える。			
D 問題解決力		正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。			
G 倫理観		女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 視聴覚教材も使用します。授業と並行し実習で活用できるノート作成など、実習に向けた学習を進めることが望ましい。評価には授業態度を含む。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題は授業で指示する。授業の理解を確認するために適宜ミニテストを実施する。科目最終試験は8回終了後に実施するので日程を確認すること。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:ミニテストは解説を行う。テストは必要に応じて解説する。レポートは返却時にコメントを提示する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【稲垣】ガイダンス、妊婦の看護 I 妊娠期の身体的変化、心理・社会的特性、母子健康手帳の活用			【予習】【復習】ガイダンスで提示	180分	
②【稲垣】妊婦の看護 II 妊娠期のリスクと健康課題、胎児の発育と健康状態			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
③【山本】産婦の看護 I 1. 分娩の要素 2. 分娩の経過			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
④【山本】産婦の看護 II 1. 産婦・胎児、家族のアセスメント・看護			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
⑤【山本】褥婦の看護 I 産褥期の身体的変化、心理・社会的変化、褥婦のアセスメント			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
⑥【山本】褥婦の看護 II 1. 産褥の異常と看護 2. 褥婦と家族の看護			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
⑦【稲垣】新生児の看護 I 新生児の特徴とアセスメント			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
⑧【稲垣】新生児の看護 II 新生児に起こりやすい異常とその看護			【予習】【復習】テキスト・資料の熟読	180分	
使用テキスト:①森恵美 系統看護学講座:専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2] 医学書院 ISBN978-4-260-04223-9 ②森恵美 系統看護学講座:専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2] 医学書院 ISBN978-4-260-04223-9 ③母子健康手帳 ※①②③とも1年次に購入済 ④平澤美恵子 新訂版写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディアク ISBN978-4-89996-410-0			その他参考文献など: 佐世 正勝 石村 由利子:ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図、医学書院、井上 裕美他:「病気がみえるvol10 産科」メディックメディア		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):マタニティサイクルにある母子の身体的変化を学ぶ上で、基本となる“からだの構造と機能”について事前に学習しておくことが望ましい。また、母性看護学に関連する新聞記事や図書に目を通し、母子と家族をめぐる社会状況に関心を持ちながら講義に臨みましょう。					

## 看護学科

科目名：基礎看護実習Ⅱ				担当教員 氏名：○高橋絹代、小倉之子、大橋達子、米山美智代、中田智子、古里直子、稲垣尚恵、泉朱子、炭谷英信					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	実習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：									
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード				
患者と意図的にコミュニケーションをとりアセスメントに必要な情報を得て、看護問題の抽出、看護計画の立案、看護の実践・評価の看護過程を展開することができる。定められた期限内レポートを提出し、病院の実習指導者や教員にアドバイスを受け、修正する力を付ける					コミュニケーション 看護過程 生活援助技術 回復促進援助技術				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力	看護技術論Ⅱで学んだ看護過程の知識を活かし、それぞれの段階を経験することにより、看護過程の理解を深める								
B 専門的技術	生活行動援助技術論、回復促進援助技術論の理論を元に患者に必要な援助を考え、実践できる								
C 論理的思考力	患者の疾患の一般的病態、治療、看護を理解し、情報から得た患者の状態と合わせ論理的にアセスメントをすすめることができる								
E 自己管理能力	病院での実習を、必要な睡眠時間を取り自己の健康管理を行い、休まずに実習を行うことができる								
F チームワーク・リーダーシップ	実習グループのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、相互に学びを共有し有意義な実習を行う								
成績評価の方法・基準：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	100 %
特記事項：提出物の期限を守る。社会人基礎力を付けて実習に臨む。									
アクティブラーニング要素：									
課題解決型学修 (ディスカッション)、ディベート グループワーク (プレゼンテーション) 実習 (フィールドワーク)									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：評価は実習中の記録が中心となる									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：教員、指導者からの指導があった部分は赤字で示し、学生は指導に基づき青色で修正し再提出を行う。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
実施期間：2024年7月									
実習場所：8か所									
厚生連高岡病院					<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の情報収集とその分析を行い、看護問題を明らかにできる。</li> <li>抽出された看護問題から看護計画を立案し、看護を展開できる。</li> <li>看護計画に基づいて実践された看護を評価できる。</li> <li>グループメンバーと協力し、効果的な実習を展開できる。</li> <li>報告、連絡、相談、挨拶など社会人として必要な行動をとることができる。</li> <li>決められた提出物を期限内には提示し、指導者、教員のアドバイスに基づき修正できる</li> </ul>				
金沢医科大学氷見市民病院									
射水市民病院									
真生会富山病院									
富山西総合病院									
済生会富山病院									
協立病院									
黒部市民病院									
単位認定：2単位90時間									
使用テキスト：					その他参考文献など：				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：遅刻、欠席は原則認めない。健康管理を十分に行い実習に臨むこと。実習場所ではスタッフの一員としての自覚を持ち、挨拶、報告・連絡・相談がきちんと行えるようにしておく。1年後期の看護技術論Ⅱ及び各領域の看護過程の学修を基に、実習がさらに深く学べるように準備しておく。									



## 看護学科

科目名: 看護研究 I (看護研究の基礎)				担当教員 氏名: 坂東 紀代美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業: 看護師としての経験や大学院での研究プロセスで学んだ知識を活かして実践と研究の関係などについて講義する						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
エビデンスの積み重ねによって看護を発展させることが必要であり、そのための基礎的な技術・態度を身につけることを目標とする。また、学会や研究会に参加することの必要性、研究活動・他者との意見交換の必要性について体験し、考えることを目指す。					看護研究 学会 文献検索 倫理的配慮	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力		看護師として成長し続ける基礎を作るために ・看護師が研究活動を行う意義について述べるができる。 研究方法の種類などについて述べるができる。				
B 専門的技術		・興味のあるテーマについて文献検索し、焦点を絞ることができる。 ・研究論文についてクリティックを行うことができる。				
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
E 自己管理力		・担当教員やグループメンバーとの調整を自主的に行い、課題を遂行できる。				
F チームワーク・リーダーシップ						
G 倫理観		・研究における倫理的配慮について述べるができる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 次回講義までレポート記入し提出						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートにコメントを記載し返却						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
①オリエンテーション、看護研究とは、研究的思考					【予習】看護研究について学修する 【復習】看護実践と研究を関連づけレポートする	【予習】120分 【復習】120分
②興味のあることから始まる研究					【予習】看護倫理について学修する 【復習】看護倫理についてレポートする	【予習】120分 【復習】120分
③研究課題、研究における倫理					【予習】量的研究について学修する 【復習】量的研究の種類をレポートする	【予習】120分 【復習】120分
④研究方法について					【予習】質的看護研究について学修する 【復習】質的研究の種類についてレポートする	【予習】120分 【復習】120分
⑤研究の進め方					【予習】興味のあるテーマを作成する 【復習】研究計画書完了	【予習】120分 【復習】120分
⑥研究成果のまとめと公表					【予習】文献検索をしてくる 【復習】文献を熟読する	【予習】120分 【復習】120分
⑦研究と看護のつながり					【予習】クリティックの進め方を学修する 【復習】クリティックを再度読む	【予習】120分 【復習】120分
⑧看護の未来へ					【予習】看護研究についての問題を探求する 【復習】全部のレポートをs、江入りする	【予習】120分 【復習】120分
使用テキスト: 看護研究(系統看護学講座 別巻)、医学書院、ISBN978-4-260-02182-1 C3347				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 興味のある事柄を追求していく楽しさを体験してください。						